

令和 5 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校 長	古本 宗久	生徒指導主事	末長 純太
取組事例名	『委員会活動の再編』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
児童が学校生活を向上、発展させることをめざし、各委員会の特質を生かして活動計画を立て、創意工夫した活動ができるようにする。	児童が自ら考え行動する自治の力を身に付けることができるようにする。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
①夏季休業中に職員研修で、職員が今、学校に必要なと思う委員会の活動内容について考える。 ②高学年の各学級で、今、学校に必要な委員会の活動内容について考える。 ③教員と高学年の各学級から出た意見を基に、高学年有志による「委員会再編会議」を行い、委員会再編案を考える。	児童にめあてをもたせるために 児童が主体となって委員会活動をするために、児童が必要だと思う委員会を再編させた。また、職員研修で職員が話し合う場を設けたことで、児童の主体性を尊重して活動させることの共通認識をもって指導にあたることができた。
④委員会再編案について生活部、企画委員会で検討し、再編内容を決定する。 再編された委員会 体育安全委員会 放送委員会 動画配信・タブレット委員会 絆づくり委員会 あいさつ委員会 図書委員会 健康づくり委員会 環境づくり委員会 執行部 ⑤各委員会の担当教員を決定し、高学年児童に紹介後、メンバーを決定する。 児童の実際の活動 ・あいさつフェス ・十小なんでも発表会 ・十日市ラジオ放送局 ・ありがとうボックス ・シークレット先生 など	児童の意欲を高めるために これまでの活動にとらわれず、新たな取組のアイデアを提案させた。また、職員は、取組のアイデアをできるだけ受け入れ、可能な活動を行うようにした。 児童の頑張りを認め、価値付けるために 各委員会が企画・運営した活動を、学校だよりや生徒指導通信等で保護者に紹介した。また、地域の広報誌にも掲載してもらい、地域の方にも活動を紹介した。職員だけでなく、保護者、地域の方からの評価も期待している。



3 成果と課題

児童アンケートにおいて、「誰かのためにがんばってよかったな、と思ったことがある」の回答が、再編前は 86.5% であったが、再編後（活動後）は 90.6% となった。高学年の児童の様子や会話などからも、主体的に委員会活動に取り組もうとしていることが分かる。委員会の活動のみでなく、自ら考え行動する自治の力を身に付けようとする気持ちや姿勢を次年度に引き継ぐことが今後の課題となる。